



納得して納税していくために

大田区立大森第十中学校 三年 榎本 花純

ふと買い物レシートを見ると、商品の価格に対して十パーセントの消費税が取られていることがわかる。七百円の本は七百七十円に、二千円の洋服は二千二百円に。少ないお小遣いの中でやりくりをしている私からすると、十パーセントの消費税は高く感じ、できれば払いたくないと思ってしまう。

消費税以外にも、様々な種類の税金がある。例えば、所得税や相続税などの国税、住民税や固定資産税だ。これらの税金を納めている大人も、私が消費税を払いたくないと感じたように、自ら望んで納税しようとする人は多くないと思う。そこで、どうすれば皆が納得して納税できるようになるか考えてみた。

日本の税金に、たばこ税というものがある。この税は、その名の通り、特殊な嗜好品であるたばこに課せられるものであり、税負担割合は約六十パーセント、年間税収は二兆円と、国と地方の貴重な財源の一つである。一方で、喫煙による人体への悪影響が明らかであることから、たばこ税を増税することでたばこの消費抑制を促し、国民の健康増進に繋がる。また、似た税金で、ハンガリーのポテトチップス税や、すでに廃止

済みだが、アメリカの一部の州のソーダ税がある。どちらも国民の肥満防止や健康増進を目的として作られた。たばこ、ポテトチップス、ソーダに共通することは、生活必需品ではなく、個人の欲求を満たすための嗜好品であることだ。私は、生活必需品にかかる税よりも、嗜好品にかかる税のほつが受け入れやすいと感じる。さらに、そのような嗜好品に税金をかけることで、過剰な消費の抑制に繋がり、国民の健康を守ることができると感じる。

話は変わるが、北欧のデンマークでは所得税が五十五パーセント、消費税が二十五パーセントなどと、世界の中で非常に税率が高くなっている。それにも関わらず、国民の幸福度は常に世界で上位五位に入るほど高い。ではなぜだろう。デンマークでは、教育費や医療費、介護費などが無料であったり、仕事を休んでも給料の補償が手厚かったりと、社会福祉に税金が多く使われ、納税者に対して目に見える形で税金が返還されている。このことが納得して税金を納めることに繋がり、国民の幸福度を高めているのだろう。

私は、たばこ税のような、お金を納める事以外に目的がある税や、使用用途が適切で、かつ国民が知れるように透明化されている税は、納得して納税することができるのだと思う。だからこそ、税金を徴収する側の国や地方自治体は、徴収目的や使用用途を明らかにすべきであると思うし、国民はそれを積極的に知ろうとすべきだと思う。中学生の私はまだ、消費税以外の税金を納めていない。しかし、将来納得して納税するために、今のうちから税金について知る努力をしていきたい。